

# 童

2019年6月4日

周囲の田んぼには、可愛い稲の赤ちゃんが生まれ、たくさんの蛙たちがお祝いの合唱を告げる日々となりました。大地のスロープでは、鯉のぼり達がお役目を終えて、子供たちの手により、丁寧に畳まれて来年までの冬眠（夏眠）となりました。緑が深まり、エネルギー溢れる若葉や木の芽が茂ってくる季節になりました。草の伸び方も凄く、10日もすると、せっかく草刈りをしたのに、また元通りという位、その成長のエネルギーは凄いものです。まさに、子供たち並のエネルギーです。

森林浴 カネチョロ散歩 泥遊び ごえもん風呂 農作業、森林整備などなど、連日大地周辺で過ごす子供たち。ジャガイモの土寄せ、芽が出揃い始めたひまわりロードの管理 田植え など、今年は、更に丁寧に農作業を楽しんでいます。「野菜や果実、畑の作物は、人間の足音を聞いて育つ」というように、何度も畑に通う事が、その成長を促進する、まさに、手をかけ、眼をかけ、心を傾ける子育てと同じですね。

さて、先日の大地ののはな文庫祭り、ご協力本当にありがとうございました。天気に恵まれ、過去最高のお客様が訪れて下さいました。お話しは、初めて野外で行われましたが、風や緑や空気など自然を感じながらお話や絵本に耳を傾けていました。スロープでは、あちこちでくつろぎながら、商店街の美味しいご馳走を頂いている光景は、まさに里山の光景そのものでした。商店街も完売続出で良かったですね。福引きコーナーは、いつも行列で、4等でも5等でも（子供にしてみれば、米よりもビー玉）凄く喜んでいました。

午後は、大人の文化祭化されたのど自慢やフォークダンスで盛り上がり、お祭りに花を添えてくれました。エネルギーと笑顔と歓声と喜びが溢れる世界、大人って素敵だなあ、大地に集う人達って面白いなあ という感覚が子供たちに浸透していけば幸せだなあと心から願います。どんな事にもエネルギーを注げる大地でこれからもありたいと思います。ありがとうございました。



## 【民泊】

ようやく、中高生の修学旅行の農家民泊が一息つきました。最近流行っているみたいで、2泊3日位の行程で、1泊は白馬の方のホテルに泊まり、カヌーやラフティングやハイキングを選択して過ごし、2泊目は、農家に泊まり、農業を体験したり、ごはんと一緒に作ったりして過ごすスタイルです。お迎えに行き、開村式では、「都会では出来ない体験をして来て下さい」という声に、いつも「都会でも長野でもできない大地でしかできないこと」とほくそ笑んでいます。周囲のお迎えの人達とどこか違う異彩を放っているみたいで、このおじさんどこか違う（時には、雄河くんがお迎えに行き、女子は盛り上がりすぎてしまう）と不安を抱かれ、大地へ到着すると、更に不安が増すみたいです。

「皆の泊まる家は、貧乏で、ガスも灯油も電気もわずかしかないから、ごはんとお風呂は薪、布団はないので外で寝袋、夜は真っ暗、周囲には誰も住んでいない」と紹介すると、ぱっと顔が明るくなり、「めっちゃおもしろそう」と答えてくれます。「誰よりも一番面白い所に来たと思うよ」と言うと、その10分後には、皆確信を持って理解するようです。

昼食は、ガスとキャンプ用バーナーと食パンとチーズ ゆで卵 シーチキンやジャムなどを用意して、自分達で作れよと言って、奮闘して一時間以上作って楽しんでいます。家族でキャンプや登山に行ったことのない子供たちだからです。一人8枚切り一斤食べてしまうほどです。それから、軽トラの荷台（これまた、乗ったことがない）に乗って、キャーキャー言いながら畑や現場へ向かい、みっちり時間まで労働させます。中途半端ではなく、本気でやらせます。時にはノルマを課します。

その後、森へ杉のたきぎを集めにいき、ごえもん風呂の火焚き。新聞紙を丸め、その上に杉の葉、その上に小枝、大枝 薪と焚き方を説明し、うちわ片手にマッチを擦ります。マッチも新聞紙も燃やしたことのない子供たち。火は赤いもの、青いもの（ガスの炎）、そしてオール電化で、火を見たことないという変遷の中で、火を焚くことが一番子供たちを虜にします。いつまでも燃やし続け、沸騰するまで湧かしたり、枝に火を点けて遊んだり、燃えている薪に水をかけてジューといわせたりして遊び続けます。

続けて、お釜でごはんをたきます。風呂焚きをしているので、かまどに火を点けるのはもうお手の物です。炊き上がったごはんをつまみ食いすると、誰もがそのおいしさに感激してくれます。夕ご飯は、天ぷらかカレーの定番ですが、これを食べるのは、薬草棟の屋根の上です。マンション住まいや都会の家だけに、屋根なんか登った事のない子供たち。ましてや、屋根でごはんを食べるなんて、屋根の上からの景色。そして、誰もが初めて体験する「やまびこ」大声で思い切り叫び、こだまして返って来る瞬間。皆感激します。

暗くなると、軽トラで夜のドライブ。田んぼに連れて行き、下車して、蛙の大合唱に耳を傾けたり、蛙を捕まえたり、星を眺めたりして、暗闇のたんぼやあぜ道を歩きます。帰ってきて、いよいよクライマックスのごえもん風呂。シャワーや石けん シャンプーが使えないことにまず驚き、板の上に乗ることに驚きます。そして「世界でここでしか出来ない体験」と煽って、スロープを裸で走ってみたらと薦めます。皆最初は無理といますが、過去全員、期待に応えてくれています。人間の原始の本能、宇宙の個体としての自分に向き合えるからです。

そして、天気が良ければ寝袋をスロープに敷いて、星を見ながら眠ります。朝は、夜明けと共に目覚めてしまいます。朝食は、ノントン母さんが作る味噌汁を中心に和食を味わい、解散となります。これが、大地の民泊の流れです。

子供たちにとって 飯綱町の家庭は、皆こんな暮らしをしているのかと誤解されてしまいそうな民泊ですが、「これは、ここだけが特殊であるから」と、本当にラッキーなんだよと返答しています。50年前だったら、きっとどこでも同じ体験が出来たでしょう。しかし、現在は、都会も田舎も家も暮らしの形態も電化製品も、皆変わりなくなりました。情報も同じです。農業体験だけは、土地や環境で違うかもしれませんが、それを除けば、画一的です。農業体験は、たぶん子供たちにとっては、最初は初めてで面白いですが、その単調さにだんだん飽きてきてしまい、形だけの体験に終わる可能性があり、ここを工夫して大地では皆でわーわー言いながら出来るように盛り上げますが、労働の後のおいしさを味わわせるためにも、辛さや苦しさも必要となります。

農業労働の体験に絞るのではなく、暮らしの流れの体験、お風呂 ごはん 眠る などの日常の生活様式の体験の方が、現代では大切だと考えます。テレビやゲーム、終日明るいコンビニなどの商店街、電化製品やインスタント食品に囲まれて暮らしている中で、暗闇 星空、夕陽 山から昇る太陽、火 炎 煙 などの人間の営みに、原始からずっと伴ってきたものが、どんどん人間から遠ざかっていっている現代生活の中で、この身近なものを体験する必要性が本当に高まってきていると痛感します。

大地の子供たちは、当たり前として暮らしのなかでこれらと生活できる幸せがあります。自覚と意識はしていませんが、今、給食でお母さん達に体験していただいているかまどごはんの炊き方。これ一つとってみても、皆さん感激して下さいます。これからわかるように、人間 ヒトとしての営みの中で、これからどんなものが重要になるか、魅力的になるか、合理化 機械化 ロボット化 人工知能化が進んでいく中で、原始古来から人間が積み重ねてきた人間を作ってきた大切なものを簡単にないがしろには出来ないことでしょう。そうすれば、簡単に人間は歪むと考えます。

皆さん、大地で 大人も子供も、原始人になってスロープを走りましょう！！